

○5番（山崎 まゆみ君） おはようございます。9月議会一般質問、初日、1番の山崎でございます。よろしくお願いいたします。

おととい、夜間の猛烈な大雨で三孤子川など、河川の洪水と土砂災害が発生しましたが、東員町の万全な防災体制もあり、まずは安堵いたしました。今朝には北勢線復旧作業も完了したとのこと。しかし、町内には家屋、車、お店など、様々な被害にあわれた方もおみえです。謹んでお見舞いを申し上げます。

日本の経済成長率は1990年代半ばから横ばいとなり、高齢化、少子化も進み2008年から人口減少に転じました。しかしそんな中であって、全国の市町村や地域住民が知恵を出し合い、人々の繋がりを活かしながら地域の課題に挑戦しています。東員町にも地域で日ごろとても頑張ってみえる町民の方、そして東員町行政当局もすごく頑張ってみえると思っています。私の今回の質問は、東員町において、来年度までに作る総合計画についての質問をさせていただきます。通告書に従って質問いたします。

第6次東員町総合計画における住民との協働のまちづくり推進について、1、まず策定段階においては住民参加と協働はいかがでしょうか。次に計画の中身についての質問です。2、コンセプトに「住民との協働」を特に重視する観点として入れることはいかがですか。そして次は計画ができ上ってからの運用についての質問です。3、第6次東員町総合計画ができ上ってから運用を展開していく段階において、行政が協働するパートナーシップとして、住民、市民活動団体を積極的に位置付けることができるようにするにはどうしますか。町民協働推進条例などをつくることはいかがですか。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（三宅 耕三君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） おはようございます。山崎議員の質問にお答えする前に、過日の豪雨に際しまして、町民の皆さんをはじめ、たくさんの皆様にご心配をおかけしましたし、また全国から激励のメッセージをいただきました。本当にありがとうございます。これからもしっかり防災対策を進めてまいりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

では、山崎議員の質問にお答えをさせていただきます。

総合計画の策定段階における住民参加と協働の取り組みとして、大きく5つの取り組みを考えております。

まず、町民の皆様の思いを取り入れるため、先月無作為抽出により3,000人を対象とした「まちづくりアンケート」を実施いたしました。

2つ目として、本町の将来を考え、話し合っていただく場として「東員町みらい会議」を立ち上げます。この会議は、町民の皆様から公募などで委員を募ります。

3つ目は、地域ごとの課題や特性を踏まえた話し合いの場として、小学校区ごとに「まちづくりミーティング」を予定いたしております。

4つ目は、これからの東員町を担っていただかなければならない大学生、あるいは高校生を対象とした「学生との懇談会」、及び町内にある企業からの視点を取り入れさせていただくため

「町内企業との懇談会」を考えております。

最後に、これまでの4つの取り組みから出された意見や提案などを専門的な視点で審議や調整をしてもらい、計画として作り上げていただくための「総合計画策定審議会」を立ち上げます。この会議は、町内の様々な団体に所属する方や有識者で構成いたします。

次に、官民の「協働」という考え方は、行政といたしましても、施策や事業を実施していく中で大変重要な要素であると考えております。総合計画の策定作業でも同様に、今回取り入れるSDGsの実現にも官民連携は必要不可欠であると考えております。今のSDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた、例えば、貧困をなくすとか、不平等をなくすといったもの、あるいは住み続けられるまちづくりをすとかいったような17つの大きな目標のことでございます。

官民の協働につきましては、基本的には、みらい会議など、町民との皆様の話し合いの中で、その位置付けは決まってくるものと考えています。

「町民協働推進条例」につきましては、行政が主導で制定を進めるということではなく、町民の皆様が主体となって議論、提案していただく方向で進める必要があるのではないかと考えております。

「協働」に関しては、高度成長期に、行政サービスや、あるいはそれ以上のものを、全て行政が担うといった、そんな時代がありました。そのときに行政が抱え込んだ事業のうち、本来行政が担うべきではない事業につきましては、住民をはじめとした民間が担うという、行政との役割分担を明確にする中でこういった協働というものは進められていきました。近年、市民活動の中から主体的な意識が生まれ、自らが地域課題に積極的に取り組んだり、まちづくり事業を創造したりするなど、行政が協働として示した事業を越えて、住民や地域自体が自ら主体的にまちづくりに取り組むケースが出てきております。こうしたケースがまだ多いとは言えませんが、協働の本質は意識であり、その多くは協働のプロセスの中で築かれていくものだと考えております。

今回の「みらい会議」のような場で、住民同士が課題を出し合い、その対策のため議論を進めるプロセスこそ、協働そのものだと考えております。協働のまちづくりには多様な関係ある人たちとの連携やパートナーシップを築くことが重要でございまして、こうした動きが、SDGsの掲げる目標の達成にも繋がっていくものだと考えております。

第6次総合計画策定における町民の皆様との協働につきましては、積極的に町民の視点で作りに上げることを基本に取り組んでまいりたいと考えております。

皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（三宅 耕三君） 山崎まゆみ議員。

○5番（山崎 まゆみ君） まちづくりのアンケートを実施されて集計作業がまだどの程度なのかわかりませんが、町民の皆さんの視点から見た東員町のまちづくりの現状とか課題とかはどんな感じか、もしつかまれていることがおありでしたらお答えいただきたいなと思いま

すが、いかがでしょうか。

○議長（三宅 耕三君） 政策課、岡本幸宏課長。

○政策課長（岡本 幸宏君） お答えいたします。アンケートにつきまして8月23日を期限にということで、集計を今から進めておるところでございます。現状といたしまして3,000人の方にお送りしまして、8月末現在で1,280名の方から回答をいただいております。これは42.7%となっておりますが、今も回答が返送されてきておる状態でございますので、これから分析をしたいと考えております。

○議長（三宅 耕三君） 山崎まゆみ議員。

○5番（山崎 まゆみ君） わかりました。では、まちづくり座談会、東員町みらい会議に参加するという意思表示をされた方の状況についてはいかがでしょうか、わかりますでしょうか。お願いいたします。

○議長（三宅 耕三君） 政策課、岡本幸宏課長。

○政策課長（岡本 幸宏君） みらい会議へのご意向をとということで、このアンケートの中で同時に問いの中に入れていただきました。その結果、アンケートの中から29名の方に参加の意向をいただいております、もう一つの方法として、広報で公募をさせていただきます。そちらの方では7名の方に回答をいただいております、合計36名の方に参加したいということでの意向をいただいております。

現状が以上でございます。

○議長（三宅 耕三君） 山崎議員。

○5番（山崎 まゆみ君） わかりました。9年前の第5次東員町総合計画を策定するときに、私はみらい会議の会長を務めました。分科会に分かれて、東員町のよいところ、地域で気になることを日々そのことに直面している職員、現場の先生、活動している地域の皆さんとともに真剣に語り合いました。課題を共有し、分科会ごとに意見をまとめました。しかし第5次のときは計画を作っている間中、最後までワーキンググループみらい会議と総合計画策定審議会との連携をあまり感じられませんでした。どういうことかということ、業者のコーディネーターの方が上手にととてもスムーズに進行してくださっていました。しかし町民ワーキンググループの話し合いが総合計画の基本構想の基となったと信じたいと思うだけで、残念ながらその実感が町民ワーキンググループ参加メンバーには持てませんでした。

今回、第6次の計画は業者を入れず、手作りで、すなわち自前で作るということだそうです。その自前とはどの程度の自前なのか、自前の割合、自前率という言葉が使われた所沢市議会議員さんがみえましたが、その自前率、東員町第6次総合計画ではいかがでしょうか、お願いいたします。

○議長（三宅 耕三君） 岡本課長。

○政策課長（岡本 幸宏君） まず自前率といいます正式な指標というのは存在はしていないかと考えております。なおどれぐらい自前ででき上がったかというのは、最終段階での答えかと思っておりますが、現段階のアンケートにつきましても、アンケート内容につきましては、

政策課を中心に前回に質問したい項目というのを入れまして、原案は全部役場で作りまして、印刷とその回収、そして分析を委託していこうと考えております。

そして今後の検討会の進め方についても、役場の中からのワーキングメンバーが中心にやっ
ていこうと考えております。そのワーキングメンバーに必要な話し合いを進める技術というの
をそれまでに付けていきたい。その前にまずSDGsの基本的な理念をということで、このS
DGsの研修会を済ませたところでございます。

以上でございます。

○議長（三宅 耕三君） 山崎議員。

○5番（山崎 まゆみ君） 今まで業者の力をかりられて作ってみえた計画を、今からほ
とんど手作りという非常にハードな作業かと思われま。業者が作るようなスマートさがなく
ても、素朴な手作りで、従来の計画以上に大きな成果が期待されるものを作っていただきた
いと思ひます。

そして2つ目の質問についてなんです、地域の問題を解決するための社会貢献活動は、本
人の生きがいや充実感を満たすものでもあり、健康長寿の延伸にも繋がると考えます。東員町
の第6次総合計画で目指す将来像の実現、暮らしやすい東員町にするために、まだ内容はこれ
から作っていかれるわけなんです、町民、自治会、団体、企業、学校、行政、それらが力を
合わせていかないといけなくて、行政が引っ張っていくものでもないと思ひますが、そのあた
りについて特に協働というものについての指針、特にどのようなものかもしおありでし
たらお願いいたします。

○議長（三宅 耕三君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） ちょっと内容が正確かどうかわかりませんが、先ほど述べ
ましたように、全ての町民、企業、その他のいろんな団体に所属してらっしゃる方もみえま。
そうした方がお互いに公平というか、フラットなパートナーシップを發揮する、どこかが飛び
ぬけるのではなくて、特に行政が飛びぬけるというのは、我々はしっかりと戒めていかなけれ
ばいけないというふうに思ひますが、そういうことで協働というのは、お互いを尊重する
ことで協働というのが成り立ってくるのではないかなというふうに思ひます。

○議長（三宅 耕三君） 山崎議員。

○5番（山崎 まゆみ君） 町長のご答弁にもありましたように、行政が引っ張っていく
ものではないというような、行政だけが突出しているものではないというお話でしたが、私は
まちづくりの主役は住民であるというスタンスだと思ひます。一人一人の住民がまちの主人公
であって、でも一人ではできることが限られているから同じ願ひを持った人たちと集まってま
ちづくりに参画をしていく、知恵を出し合えるとよいと思ひますが、このようなまちづくりに
参画する町民の人材を育成することについてはどのようにお考えでしょうか。お願いいたしま
す。

○議長（三宅 耕三君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） これまで町民の皆様向けのいろいろなイベント、あるいは勉強

会というか研修会というか、そういうものを続けてきました。参加率も割と意識のある方を中心に来ていただいて、熱心に参加、そして勉強していただいたかなというふうに思っています。それが例えば若者を中心とした若者会議だとか、女性を中心としたそういう研修会だとか、高齢者だとかという、割といろいろな幅広い年代層やら、あるいはいろいろな分野で募集をさせていただいて、興味のある方に来ていただいたということで、こういうことをもっともっとこれからも続けていくつもりですし、町民の皆様には、ぜひ興味を持って参加していただきたいと思いますので、そうした興味を持てるような研修会というのをこれからも続けていきたいなというふうに思っています。

○議長（三宅 耕三君） 山崎議員。

○5番（山崎 まゆみ君） 今、町長がお話された中の女性限定の講座というものに私も参加いたしました。その参加者の顔ぶれは本当に今までの東員町の講座になく、幅広い年代の、いろんな立場の女性の方が参加してみえて、グループワークがほとんどだったんですが、一人一人の思い、そしてまちがよくなるためにはこんなことをしたらいいというような思い、そんな講座でもありました。そのような講座はこれからも望まれると思いますので、また続投でいろいろな形でやっていっていただけるといいなというふうに思います。

そして、東員町社会福祉協議会のサポートで、町内各地域でカフェの活動が始まったり、地区座談会の取り組みが自治会などで始まっています。まさしくこれらも協働の取り組みであり、参加されている町民の方は地域の課題について積極的に発言をされていて、皆さんで課題解決をし、自分たちの地域が暮らしやすい地域、そんな地域のために楽しいイベントを企画されたりして、私も見学させていただくたびに、夜に会議をしてみえてたり、日々ご尽力されている地域の皆さんに敬服いたしております。それらの活動の中に、東員町の若い職員さんの姿を見かけることがあります。その職員さんは役場の仕事としてではなく、自主的に主体的に参画をされているご様子で、若い職員さんの自発的な姿に最近感心しています。

そこでお尋ねします。東員町は職員の市民活動への自主的参加、自発的参加をするような、町職員の市民活動への参加を推進するという取り組みをされているのでしょうか。お願いいたします。

○議長（三宅 耕三君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） とりたててそういう要請というか、そういうことはしておりません。あくまでも自主的にやっていただいておりますというふうに思います。彼らはやっぱりふだんの仕事、町民の皆さんと接触する、役場というのは小さいので、町民の皆さんとの距離が非常に近いところだというふうに思っています。職員一人一人がそうした町民の皆様とかかわる中で、地域でそのまちづくりをされている町民の皆様の中へ自分も主体的にかかわっていくという意識が、やっぱり小さいだけにここはあるのではないかなというふうに思って、うれしく思っております。

○議長（三宅 耕三君） 山崎議員。

○5番（山崎 まゆみ君） 町職員の方の意識改革の推進を特にされているわけではない

けれど、自発的にそういうことをしてみえるということ、よいことだと思います。本当に大切であり、今後も私、同じ地域に住む仲間として、皆さんと地域の活動に、決して職員さんには強制的にとか、無理があっては絶対にだめで、主体的に参加していただける職員さんと一緒に地域の活動をしていきたいと思います。

第5次の中でも、町民参画のまちを作る、協働のまちづくりの推進という項があり、具体的数値目標では、令和2年に東員町の50%、すなわち町民の2人に1人が地域活動やボランティア活動に参加するという目標が掲げられています。実際はいかがでしょうか。地域活動に参加される方はどれぐらい増えているのでしょうか。わかる範囲内で答えをお願いいたします。

○議長（三宅 耕三君） 町民課、松田 徹課長。

○町民課長（松田 徹君） この3月末現在で73団体と承知してございます。

以上でございます。

○議長（三宅 耕三君） 山崎議員。

○5番（山崎 まゆみ君） 町民課の方から市民活動の活動団体の数をお答えいただきました。やはり先ほど町長が述べられたように、協働というのは本当に意識の問題なので、どれだけ町民の協働が進んだかというものの数値目標というものは本当に難しいと思います。2人に1人の人が地域活動をしているというような目標が実際に掲げられた第5次ですが、現在のどのぐらいの進捗かというのは何となくというふうな感じしかわからないところです。

協働によるまちづくりは、やはりこれからも加速していかないといけないと思います。その協働の視点を第6次総合計画の特徴の一つに掲げるべきであると私は思います。市民活動や地域の課題解決のために、地域や東員町にどれだけ貢献できるかということで、それを行政と協働でうまくやっていく仕組みができるとよいと思っています。

そこで3番目の質問についてなのですが、市民活動センターが文化センターの2階に開設されてもうじき4年になると思いますが、その登録団体の数も先ほど課長の方がお答えになった数かなと思います。そうでしょうか。団体同士の協働のイベントとして、おのおのの団体の活動の発信の場として、東員わくわくフェスタが今年も9月の下旬に市民活動センター主催で開催され、小さなお子さんも若者もシニア世代も幅広い年代の笑顔がいっぱい集まる、毎年大盛況のイベントです。しかし、まだ市民活動には全く無関心な方も多いのが現状で、これらの取り組みはまだ道半ばである状況であると思います。そのような状況を認識して、今後の推進には工夫が必要だと思います。

そこでお尋ねします。市民活動センターの今後のビジョンについて、いかがでしょうか、お答えをお願いいたします。

○議長（三宅 耕三君） 小川裕之副町長。

○副町長（小川 裕之君） 私の方からビジョンといいますか、将来展望といいますか、将来どうあるべきかという、ある意味あってほしいという意味合いでもありますけども、やはり市民活動には大きく3つあると思います。私の私見としましては、一つはそもそも昔からある地域のコミュニティ、これも一つの活動であります。それからもう一つは、よく言われるN

PO、やはりミッションをもって、地域関係なく幅広く自分がこれをしたというミッションを実現するための活動、それからもう一つは、ある意味趣味的などといいますか、趣味を全うしたいというような集まりの団体、大きくそのようなものがあるかと思っています。

それで多分これから一番重要になってくるのが自治会等、地域コミュニティもそうですけども、それ以外にもミッションをもった形でやっていただく。ただミッションをもってやっていくには、どうしても人とお金がかかります。NPOの先進的なアメリカであれば何十億という予算を持ちながら、何百人という職員を持ちながらやっているところがあります。ですから将来的には、市民活動をいわゆるNPOに就職して、そこで生活ができて、そして地域に貢献していく。個人、地域ともにWinWinの関係が持てるような、自立したNPO、市民活動が一番理想的ではないのかと、一つの新しいライフスタイルとしてそういうものが重要になってくるのではないかと、あるいはそうあるべきではないのかなというような、私の個人的な意見ですけど、そう思っているところでございます。

以上です。

○議長（三宅 耕三君） 山崎議員。

○5番（山崎 まゆみ君） 副町長のご答弁で将来展望というものについて、現在市民活動センターがありますが、将来的にはそういう方向に行くといいなという思いを述べていただきました。

私は愛知県の安城市の市民協働課と安城市市民活動センターを先日訪問してまいりました。安城市には、自治基本条例、市民参加条例、市民協働推進条例が策定されています。自治基本条例では、住民が主役の自治の実現を図るため、住民参加と協働によるまちづくりを進めることを定めておりますし、市民参加条例では、積極的な行政情報の提供により、住民参加の機会を広げ、住民が主体的に行政に関与できるまちづくりを目指そうとしておりますし、市民協働推進条例では、住民協働のためのものという、3本立てで条例がありました。

人口、財政規模から東員町にそれらを求めることは難しいかもしれませんが、協働を進めるための指針となるような、第6次総合計画の個別計画として、東員町の町民協働の推進を総合的、横断的に図る計画条例が今後必要だと考えます。

第6次東員町総合計画を実現するために、住民、そして市民活動団体と行政との協働のさらなる推進、自立した市民活動を重要ポイントに、今後も取り組みを進められるように私も協力していこうと思います。

そこで、第6次総合計画策定に当たって、若者からシニア世代が願わくば男女同数の割合の方が参加される和気あいあいとしたワークショップ、さらにパブリックコメントなどで貴重なご意見やご提案をいただいて、町民皆さんの積極的な参加が動き出すことを期待しています。

最後に1点お尋ねいたします。三重県の総合計画で、少し古い話で恐縮ではありますが、北川知事のときには三重の国づくり宣言、野呂知事のときには県民幸せプランというような、総合計画に愛称というか、皆さんに親しまれるような計画の名前がありました。第6次東員町総合計画にもそのように町民に親しまれるような計画の名前があるとよいと思いますが、いかが

でしょうか。

○議長（三宅 耕三君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 今の山崎議員のご提案というのは、これはすごくいいことだというふうに考えていますし、我々もそのようなやわらかいイメージを持った、そんな計画というものを作り上げていきたいなというふうに思っています。ありがとうございます。

○議長（三宅 耕三君） 山崎議員。

○5番（山崎 まゆみ君） 前向きなご答弁、期待しております。

様々な取り組みが少しずつ進んできている東員町、行政と住民のパートナーシップには一人一人ができる範囲で責任ある行動をすることが必要です。町民側のその意識改革も今後少しずつ進んでいくかと期待しております。あらゆる立場の人々が信頼で結ばれて、人と命を大切に、SDGsの持続可能な開発目標に沿って、2030年までの今後の東員町の目標を考える第6次東員町総合計画を多くの町民の参加で作成し、開かれた市民生活を自分たちの手で実現していける、そんな東員町であるように私も協力していこうと思います。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。